

昭和第一学園後援会
〒190-0003
東京都立川市栄町2-45-8
昭和第一学園内
電話 042(536)1611
Fax 042(537)6880
http://sdg-bc.com/

＜関東選抜大会＞
1回戦24-25 対守谷高(茨城)

■自動車研究部
＜第1回みたかFabコンテスト＞
「だれかを幸せにする、こころが豊かになる、デジタル加工技術を活用した小物・雑貨・オブジェ」というテーマで奨励賞受賞

■陸上競技部
＜立川市駅伝競走大会＞優勝
■ライフセービング部
＜第42回全日本選手権大会本選＞
2年女子 女子ビーチスプリント第2位

＜第4回全日本ユースライフセービング・プール競技選手権大会＞
3年男子 3年男子 ラインスロー第2位

■水泳部
＜第25回テクノスカレッジ水泳競技大会＞
1年女子 女子100m自由形第1位

■柔道部
＜東京都高等学校第四支部新人大会＞
1年男子 無段66kg級 優勝/1年男子) 無段66kg超級第3位



平成29年度 後援会総会 報告

5月20日(土)、100名の会員が出席し立川グランドホテルで開催されました。中野隆右会長の挨拶に続き、比留間信男議長により議事が進められ、28年度収支決算及び29年度収支予算が承認されました。第2部では今夏グローバル奨学金の支援を受けて語学研修に旅立つ生徒の代表2名が意気込みを語り、第3部の懇親会へ。手締めは高水攻事務局長が伝統の「行進歌」を朗々と歌い上げ、拍手喝さいの中盛会のうちに終了しました。



平成28年度 昭和第一学園後援会収支決算		平成29年度 昭和第一学園後援会収支予算	
自平成28年4月1日 至平成29年3月31日		自平成29年4月1日 至平成30年3月31日	
(収入の部)		(収入の部)	
会 費	22,134,000	会 費	21,324,000
寄 付 金	46,000	寄 付 金	45,000
雑 収 入	438,789	雑 収 入	400,000
前年度より繰越	5,947,800	前年度より繰越	6,187,811
合 計	28,566,589	合 計	27,956,811
(支出の部)		(支出の部)	
助 成 費	14,000,000	助 成 費	14,000,000
事 業 費	4,478,201	事 業 費	4,410,000
体育文化活動補助	2,500,000	体育文化活動補助	2,500,000
支部活動費	961,250	支部活動費	950,000
菊葉祭食券	282,800	さくら会活動助成金	60,000
賀詞交換会分担金	50,000	菊葉祭食券	280,000
さくら会活動助成金	42,000	賀詞交換会祝金	50,000
講堂兼体育館建設募金	300,000	講堂兼体育館建設募金	300,000
その他	342,151	その他	270,000
総 務 費	224,794	総 務 費	580,000
交 際 費	80,000	交 際 費	50,000
事 務 費	89,887	事 務 費	240,000
会 議 費	763,415	会 議 費	800,000
印 刷 費	552,636	印 刷 費	800,000
通 信 費	189,845	通 信 費	200,000
育英事業基金	2,000,000	育英事業基金	2,000,000
予 備 費	6,187,811	小 計	23,080,000
合 計	28,566,589	次年度繰越金	
		予 備 費	4,876,811
		合 計	27,956,811

＜育英事業基金＞28年度決算		＜育英事業基金＞29年度予算	
(収入の部)	決算額	(収入の部)	予算額
前年度末残高	14,763,456	本年度返還額	150,000
本年度返還	112,060	本年度利息	2,600
本年度利息	2,571	本年度繰入れ額	2,000,000
本年度繰入れ額	2,000,000	前年度繰越金	12,888,655
合 計	16,878,087	合 計	15,041,255
(支出の部)		(支出の部)	
貸付(見込)額	0	緊急援助奨学金(貸付)	150,000
成績優秀奨学金(支給)	2,009,000	成績優秀奨学金(給付)	2,000,000
グローバル奨学金(支給)	1,980,000	グローバル奨学金(給付)	2,440,000
残高証明手数料(支払)	432	次年度繰越予定額	10,451,255
合 計	3,989,432	合 計	15,041,255
累計(手許有り高)	12,888,655		

ホームページリニューアルしました!
<http://sdg-bc.com/>



菊葉リレーションズ

KIKUYOU-RELATIONS

—はばたく 昭和第一学園生 —

技 術 屋、魂。

—自動車研究部 (SDG PROMOTERS)—

自動車研究部は、省エネカーレースで優勝11度を誇る技術屋集団である。エコラン(下注)では2年連続6位(130~140校中)と健闘し、古豪復活にあと一步と迫る。新設の特別奨励部の第1号に指定され意気上がる部員を代表して、A君、B君、C君と顧問の新屋敷先生に話を聞いた。

なんで自動車研究部に？

(A君)「2年になって電子制御の技術を身に着けたいと思い入部しました」。レースではメカニック(制御)とタイムキーパーを担当する。(B君)「小学生の頃レーシングカートの全国大会で9位に入賞しました。以来工業高校志向が強く、昭学がエコランに参戦していることに惹かれて入学・入部しました」。1年生からドライバー一筋。父親は本校OBである。(C君)「自動車整備士資格を持つ父親の影響で車好き、昭学に自動車研究部があることを知り入学・入部しました」。レースではメカニックとピットを担当。顧問が初めて知る入部秘話である。

役割とチームワーク

自動車研究部の研究テーマは、省エネカーとデジタル工作機械の開発(CNC等)だ(ソーラーカーは休止中)。電子制御はA君、パーツ管理と会計・書記はC君に任されている。地道な日常活動の成果を大舞台のエコランに結集する。レースでマシンを操るのはB君だが、彼にも大切な準備がある。それは「レースでは相手を決めてギリギリの距離で追走します。そのためイイ走りをする大会上位者の情報収集は怠りません」。ここぞのタイミングでイン側から最短距離で抜き去ることができる裏にはこうした準備がある。静かな快走からは想像できない、かけひき、闘争心がそこにはある。

モットー・夢

A君は「あきらめない、守らない・技術屋魂」。将来は、集積回路の製作やCNC設計の仕事に就くため大学の工学部で電子制御を学びたいと言う。B君は「レースを楽しむこと」。夢はエコランで頂点に立ち先生を表彰台の一番高い所に

立たせること(新屋敷先生がうろつとしたことは言うまでもない)。C君は、「最後まであきらめない」。将来は、「整備士になる。整備士の仕事から離れている父親の思いも果たす」こと。皆“攻めの姿勢”だ。



技術屋魂

「あきらめない・守らない(守りに入らない)・技術屋魂」は、自動車研究部のDNAだ。新屋敷先生は、「生徒にはものづくりの大切さ、技術屋魂を伝えたい、そして3年間それを楽しんでほしい。でも生徒たちの話を聴いていて、もしかしたら一番楽しんでるのは自分かな」。続けて「ドライバー一筋のBを表彰台に立たせること、それが次の大会への部員達の思いです」。

10月1日の第37回エコランに向け、自動車研究部は佳境に入る。祈・古豪復活!!

(文・竹下)

(注)
《エコラン=Hondaエコマイレージチャレンジャー全国大会》

50ccエンジンを使用し規定の距離を規定時間内に走行した前後の燃料を計測し、消費量の少なさ(1ℓで何キロ走ったか)を競う。前回は1,359.995km/ℓで6位入賞。毎年埼京支部の村山支部長が応援ツアーを主催する。

リレー随想28

自動車研究部のDNA

村山 圭治

先日、自動車研究部が2年連続で全国大会6位入賞という輝かしい実績を挙げ、また、長年にわたる顧問・生徒一体となった地道な研究努力が認められ、本学園初の“特別奨励部”に指定されました。長く応援をしてきた者の一人として嬉しいかぎりです。

ところで、長く日本経済を支えてきている自動車産業に大きな変革が起きようとしています。鉄製のボデーでガソリンエンジンのクルマを人が運転する時代が100年以上も続いてきましたが、これからは軽い新素材の電気自動車が自動で走る時代になるでしょう。さらに、今年4月、米配車アプリ大手のウーバーは2020年までに“空飛ぶタクシー”の飛行試験を行うことを発表し話題を集めました。この空飛ぶ車は公道を走るオスプレイの小型版ともいわれていますが、考えてみただけでも楽しくなります。

オスプレイといえば、オスのハチと呼ばれるドローン(小型無人機)の発展には目を見張るものがあります。先日、千葉のあるゴルフ場で冷たいものでもと思い、茶店に入ると、誰もいなく、テーブルの上には一台のタブレットがあるだけ。説明書どおりに画面にタッチすると、しばらくして、エンジンの音を響かせて、茶店の前の指定された場所に注文した冷えたビールを置いて、再びスタートホールの方に飛び上がって戻っていきました。あつという間の出来事でしたが、そのビールのうまかったこと。感激しました。もうここまで来ているかとその技術の進歩に目を見張りました。

自動車研究部のDNAを活かし、ドローン研究部を立ち上げ、世の中の大きな流れにも乗りたいたいと思いませんか。

(学園理事、後援会埼京支部長、昭和30年電気科卒)



「学校経営方針(骨子)」 掲載にあたって

校長 森田 勉

常日頃より物心両面で大きな支えとなっていた
だいております後援会や保護者の皆様に対して、
この場をお借りして感謝申し上げます。どうも
ありがとうございます。

昨年度の『菊葉リレーション(28号)』にて「学
校経営方針」の骨子を初めてご披露することが
でき、多くの方々からご意見やご感想をいただき
ました。今年度も「重点課題」を中心に掲載させ
ていただくことになりました。ぜひ中身をご覧な
り、私たちの教育活動がこの方針にそっているか
どうか、評価やご助言などをいただければ幸甚で
す。

なお、字数に限りがありますので、普遍的な理
念すなわち教育目標や教育方針、及びここ数年継
続して掲げている「中・長期計画」の実践課題に
ついては割愛させていただきます。また、すでに
新年度がスタートしていますので、実践中の課題
も多々あることをあらかじめご承知おきくださ
い。

平成29年度 学校経営方針(骨子)

今年度の重点課題

1 生徒も教師も「明るく 強く 正しく」 コンプライアンスマインドの醸成(継続)

私たちの教育の取り組みは、本校の校訓である
「明るく 強く 正しく」の精神の具現化にある
と言っても過言ではありません。

すべての生徒が、そしてすべての教職員が自分
の生き様にこの校訓を落とし込んで、自己の行動・
言動がふさわしいものかどうかを自分で、あるい
は相互に検証して、常に望ましいものになるよう
に心がけてほしいと願っています。また、生徒や
教職員に留まらずすべての本校関係者に、この校
訓がまさに崇高な精神であり続けるよう行動規範
を求めています。

2 顧客満足度を高めるためのPDCAサイクル の徹底と目標文化の醸成及び教育目標実現 に向けて組織的展開の推進(新規)

昨年度、いくつかの教科の授業ではアクティ
ブ・ラーニングの実践など、教科として「主体
性」を意識した取り組み、また個々の教師の先進
的な取り組みが増えてきています。そこでは、そ
れらの取り組みによって、生徒の主体性を引き出
し高めることができている事例も報告されていま
す。そしてさらに、それを生徒に還元することに

よって生徒をより高次元に成長させる展開につな
がっているケースもありました。これは、顧客満足
度を高めている注目すべき成果だと言えます。

また、昨年度新たに取り組んだブリズベン語学
研修のように、生徒に「振り返り」の文章を書か
せることによって、検証してさらに生徒の成長を
促している特筆すべき実践もありました。これら
は、生徒ばかりでなく保護者の満足度を上げる
取り組みと言えます。今年度も生徒が成長する
教育機会を機微に捉えて、組織全体の教訓や課
題抽出につながるものになるように継続して工夫
していきたいと考えています。

理念の具現化、すなわち教育目標実現は3年間
のあらゆる教育的機会を充実させることで可能
となります。その教育プロセスで得られる生徒
や保護者の満足度と3年間の集大成に対する満足
度のふたつがいわゆる顧客満足度というもので
あり、それを高めること、そしてそのためには
PDCAサイクルの徹底と目標文化の醸成が欠か
せないことがここ数年の総括で明らかになって
もいます。今年度は、これを組織的展開で実現
していくことにより、さらにその内実を高める
ことを重点課題とします。

諸活動に取り組む単位組織が文書化されたある
一定の『方針』の下に(構成員である個々の教
員がその方針を念頭に置きつつ持ち味を出しな
がら)取り組んだ結果として、「何が変わったの
か。または変わらなかったのか。それは何をも
ってそう言えるのか。その原因は何か。その成
果と課題は何か」を組織として明らかにするこ
とが求められます。私たちの組織的取り組みが
生徒たちの主体的取り組みに転化したとき、本
校に目標文化が醸成されたと断言できるものと
確信しています。これが習慣化されるように意
識的に全力で取り組んでいく所存です。以下に
、そのイメージを示しておきます。

次年度の重点課題のひとつ『組織的展開』 のイメージ(例)

組織化(Organize)

○教員…教科活動については各教科が単位、
学年活動については各学年が単位。行事に関
しては、関係教員で実行委員会を組織する。

○生徒…実行委員会を組織
指導方針策定(Plan)にあたっては、教育理
念実現のためのその手立て(生徒の成長を、
何をもちて検証するか)を明確にすることに
留意し、その組織のグループ内で十分に討
議をして策定したい。策定案は各単位組織
のリーダが作成。

諸活動(Do)は、上記方針に則って、各
教員の持ち味を十分に活かしながら展開。

総括(Check)...総括案作成と討議。成
案作成。

- i) 組織化に対する評価と検証。
- ii) 方針に基づく評価と検証。私たち
の教育活動によって、生徒の主体性を
高めることができたかどうか。その
評価・検証は何をもってなされたか。
その要因は何か。



iii) 方針について、またはその浸透度
合いについての評価。

iv) 取り組みについての評価。

v) その他、方針作成時点にはな
かった現象や付随事項、または評
価できることなど。

vi) 教訓と課題の整理。
生徒への還元(生徒の自己発見
と自己実現の一)

「後援会副会長に就任して」
安藤 観一郎
(昭和第一同窓会会長)



このたび、5月20日の昭和第一学
園後援会総会において副会長に就
任しました安藤観一郎です。私
は、昭和38年に本校を卒業し、
大手電機会社に就職しましたが、
その後、人生の岐路を迎え、昭
和41年理工系大学に進学しま
した。卒業後50年の社会人を
経験させていただき、平成21
年から母校の昭和第一同窓会
に戻ってきました。昨年と同窓
会総会において、同窓会会長に
就任するなど責任が益々大き
くなっております。

高校時代の同期生とは、担任
の川田先生を交えて秋の旅行と
年2回のゴルフを企画開催す
るなど楽しく懇親を継続して
おり、何といたっても高校時
代の思い出が大きな支えにな
っています。また、後援会の中
野会長はじめ大神田理事長、
森田校長他多くの諸先輩と親
しくさせていただき有難い思
っております。

学園からは他に自己点検・評
価委員、評議員を拝命しており
、学園を取り巻く諸事に関連
する様になり多事多端ですが、
同窓会会長としての活動はも
ちろん、後援会副会長として
も各種活動に積極的に参加す
るよう努力し、学校や地域の
ため精一杯務めさせていただ
く所存です。今後ともご指導
・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

在校生の活躍レポート

28年度後半 敬称略 *個人成績は上位入賞者のみ

■野球部<秋季東京都高等学校野球大会>

- 1回戦 4-1 対都立田無
- 2回戦 7-14 対早大学院

■自転車競技部

<関東高等学校新人自転車競技大会>

- チーム・スプリント第1位
- 4kmチーム・パーシュート第1位
- 1kmタイム・トライアル第1位
- 3kmインディヴィデュアル・パーシュート第1位
- スプリント第1位 スプリント第2位 ポイント・レース第1位

■ハンドボール部

助のため)及び次年度の方針の柱を抽出。(Action)

以下詳細割愛

- 3 新しい時代に相応しい行事の検討(新規)
- 4 コース統合型の新工学科教育の充実(新規)
- 5 普通部の定員増に伴う諸課題に対する具体的な準備(新規)

以上

「後援会副会長に就任して」
吉井まゆみ
(昭和第一学園高等学校PTA会長)



後援会の皆様におかれましては益々ご健勝のこと
とお慶び申し上げます。また、日頃より皆様には
学校ならびにPTA活動へのご支援ご協力を賜りま
して心より感謝申し上げます。本年、後援会総
会にて副会長の任を仰せつかりました吉井まゆ
みです。

これまでPTA活動を通して後援会の皆様の支
援活動を拝見させていただいておりましたが、こ
のたび後援会副会長の任をいただき、身の引き
締まる思いと同時に後援会の皆様と共に一員と
して携われることを大変嬉しく思っています。

PTA役員としては最後の任期となります。至ら
ない点もあると思いますが、皆様のお役に立て
るよう、PTA役員として、後援会副会長として
、後援会の皆様と共に精一杯やり抜く所存で
ございます。一年間どうぞよろしくお願
い致します。



- <新人戦都大会>第2位 4回戦41-11対都立西
- 5回戦35-14対都立小平
- 決勝4校リーグ
- 32-20対都立東大和 30-18対安田学園
- 14-25対明星 東京都代表、関東選抜大会出場
- U16日本代表選出(日韓交流戦出場)
- <秋季大会>第2位
- <第32回十字屋スポーツ杯>
- 2回戦16-5対静岡理工大星稜
- 3回戦 16-5対甲府西
- 準決勝 12-5対静岡農業
- 決勝 15-9対早稲田実業
- 結果6年連続6回目の優勝 (次ページへ)